

近畿圏広域計画検討会議 第11回幹事会

1. 開催日時：平成20年3月14日（金） 10:00～12:00

2. 場 所：大阪合同庁舎1号館 第1別館2階大会議室

3. 出席者：別紙参照

4. 議事概要

(1) 第3回学識者会議の報告について

- ・ 学識者会議委員からの主な意見の紹介。

(2) 目指す姿を実現するための戦略について

- ・ 第3部の戦略には、本日の発言内容を含め現時点では各機関からの意見をできる限り盛り込むこととしているが、今後、具体的な内容は第4部へ移行するなどし、骨太の戦略にしていく。
- ・ 「新たな公」「アジアとの関係」というキーワードを横串として戦略を整理していく。
- ・ 「新たな公」という観点からの戦略の案を事務局で作成し今後議論していく。

〈各機関から出た主な意見等〉

◇ 「1. 歴史文化に誇りとこだわりを持って本物を産み育む圏域」

- ・ 「本物を産み育む圏域」という表現について、本物を産み育む圏域を目指すには何をすればよいか分かるように修正すべき。
- ・ ブランドづくりに関しては、各地域がばらばらのブランドにならないよう留意すべき。
- ・ ファンドという概念について議論が必要。
- ・ 閑空と観光拠点間のネットワークの整備と、アクセスの不便な観光地対策は分けて記載すべき。

◇ 「3. アジアをリードする世界に冠たる産業創造・交流拠点」

- ・ ポートオーソリティについては重要な概念であるため、書き方を工夫して書く。
- ・ 戦略として人材が育ち、集まるということを一番大切にすべき。
- ・ 圏域独自のCO2削減目標の設定について記載するかどうかは、削減目標を実現する手法や推進体制などとあわせて今後議論していく。
- ・ ベイエリアについて、「再編」というより先ずは「集積」を図り、「強化」していくことが必要。

- ◇ 「4. 人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進地域」
 - ・ 普及・啓発といった言葉づかいは古いかもしれないが、温暖化対策への理解を得るという内容は必要。
 - ・ 5Rの促進となっているが、3Rが現状的にどこまで推進できているのか考えると、5Rまでいけるのか検討が必要。
 - ・ 第4節(4)の「健全な流域圏と生態系の管理」から多様な主体が参画した流域管理体制が削除されている。これは琵琶湖・淀川流域圏の取組を念頭に置かれたもの、新たな公の取組の例として残すべき。

(3) 近畿圏の特徴と課題について

- ・ 本日の発言内容を踏まえ、7つの姿とうまく繋げるように整理していく。

〈各機関から出た主な意見等〉

- ・ 教育は関西の強みであり、教育について書き込むべき。
- ・ 関西は国の始まりや都が置かれたことなど他圏域で書けないことを書くべき。
- ・ ものづくり、バイオあるいは医療という視点からも書けるのではないか。
- ・ 高所得者が減っていることで優秀な人材が流出しているといった危機感も書くべき。

(4) その他

- ・ 次回検討会議（協議会）については、5月頃を目途に日程調整をしていきたい。

以 上